

【劇工房MAKO企画・二十周年記念作品】

# 尾張名古屋は

# 特別公演 母でもつ

尾張藩祖・徳川義直公生母「お亀の方」の数奇な一生を  
菩提寺・相応寺を舞台に公演。

令和元年十一月二十二日(金)～二十四日(日)  
会場／相応寺本堂



## 尾張藩祖・徳川義直公生母 相応院 お亀の方

徳川家康が伏見城に居住していた文禄三年(1594)五十三歳の時、給仕に出た女性があった。その身体の豊かさ、美しい容姿に加えて、聡明さに家康は気に入り、側室として仕えさせる。その女性が当時二十一歳のお亀である。お亀は京都石清水八幡宮の社人志水宗清の娘。慶長五年(1600)十一月、家康五十九歳のとき、九男義直が生まれた。幼名を千代。その後、五郎太丸と名乗る。その後、尾張家では代々の世子に五郎太丸と名付けるようになった。慶長十五年(1610)、名古屋城が完成すると十一歳になった義直は駿府から移り尾張藩の藩祖となった。十六歳の元和元年(慶長二十年)(1615)、大阪夏の陣の動員で世間が騒然としている四月十二日、名古屋城で結婚の儀式を挙げた。新婦は和歌山三十七万石城主浅野幸長の娘春姫で、義直より二つ年下の十四歳だった。このように自分の子である義直を名古屋城主に、また先に産んだ竹腰正信を城代家老に任じ、美濃今尾三万石の領主としたのも、お亀の方の力によるものと考えられる。

家康が逝去したのはその翌年。お亀の方は髪をおろし相応院尼と称し、義直とともに名古屋に移り住むことになる。

相応院は、寛永十九年(1642)九月十六日、江戸屋敷で静かに息を引き取った。享年七十歳。江戸伝通院で荼毘に付され、遺骨は遺言により名古屋へ運ばれた。義直は、名古屋に相応寺を創建し、自らの手で尼僧姿の母を描いて寺に納め、手厚く菩提を弔った。戒名は相応院殿信誓公安大禅定尼。そのとき名古屋で行われた、相応院お亀の方の葬儀行列の巻物が相応寺に保存されている。



空間演出  
**小川 珊鶴**  
Sankaku Ogawa

花道家。幼少より茶道、華道、日本舞踊をはじめとした幅広い日本古典芸能に親しむ。2009年、名古屋市民芸術祭では特別賞として伝統芸術部門・企画賞を受賞。家庭画報や和楽といったメディアでも数多くとりあげられている。



作・演出  
**眞己 薫**  
Kaoru Mako

劇工房MAKO企画代表。OSK日本歌劇団で「聖 薫」として活躍。退団後は芝居・ミュージカル等、数多くの舞台に出演し、リサイタルを行うなど幅広く活動。MAKO企画公演の作・演出のほか、他劇団の脚本・演出やバレエ団の創作・演出・振り付けなども手がけている。

### チケット申込方法

- 1) 下記の参加申込書にご記入の上、FAXでお申し込み下さい。
- 2) HPのチケット予約専用フォームでもお申し込み頂けます。

NPO 法人本丸ネットワーク  
<http://www.haruhime.info>  
劇工房 MAKO 企画  
<http://www.md.ccnw.ne.jp/makokikaku/>

## 舞台「尾張名古屋は母でもつ」参加申込書

FAX用

以下の通り、申し込みます。

令和元年 月 日

住所	〒	所属	本丸ネットワーク会員 その他 ( ) 一般
TEL (携帯)	( ) - ( )	mail	@
FAX	( ) - ( )	勤務先 (又は学校名)	
ふりがな		参加内容 (☑を付けてください)	11月22日(金) □昼の部 (14:00) □夜の部 (19:00)
氏名			11月23日(土) □昼の部 (13:00) □夜の部 (18:00)
同伴者			11月24日(日) □昼の部 (11:00) □夜の部 (16:00)

申込方法：申込確認後、チケットを送付させていただきます。 申込締切日：2019年10月31日(木) FAX 052-734-6699

主催：劇工房MAKO企画 協力：NPO法人 本丸ネットワーク、宝亀山 相応寺

お申込先 (本丸ネットワーク)：〒464-0827 名古屋千種区田代本通 3-16 TASHIRO71 7102 TEL 052-734-6635 FAX 052-734-6699